

# 市長マニフェスト2009(案)

## 「幸福実現都市をみんなで作ろう！」

2期目の市長選挙に出馬するに当たり、新たな気持ちでマニフェストを発表します。

私は4年前の市長選挙の際に、[マニフェスト](#)を発表しました。そのマニフェストは、すでに牧之原市の[総合計画](#)や[戦略プラン](#)として市民に示され実行されています。したがって、2期目に当たっても、基本的にはそれらを継続し踏襲します。

4年間進めてきました「[市民との協働](#)」をさらに進め、市民との信頼関係の上に立って、それらの事業を進めると同時に、特出すべき10項目とその他の21項目を提示します。

これらについては、市長就任後改めて検討し、市議会の皆さんの同意や議決をいただいて速やかに実行に移します。

牧之原市長  
西原茂樹

### 特出する10の約束

#### 地域医療の中核である榛原総合病院を存続し再建を図ります！

医師はじめ関係者の協力の下で指定管理者制度への移行を目指し、病院の存続と再建を図ります。平成22年中に榛原総合病院内へ100床規模の老人保健施設を設置します。診療科目の減少など当面厳しい病院運営が続きますが、市民への情報提供に努め、牧之原市の財政破綻を招くことなく榛原総合病院の再建を図ります。

・事態が流動的なため必要額等を示すことができません。

#### 中学3年生までの医療費の無料化を県と連携し実現します！

静岡県に対し、医療費無料化(中学3年生まで)の実施を働き掛け、実現を目指します。市町村格差のない県全体での取り組みが重要ですので、県や市町と連携し実現を目指します。

・医療費無料化に市としての必要な経費 約1億5,000万円。

## 市民の安全と安心を高めるため、消防救急を始め総合防災力を強化します！

消防広域化については、将来の1県1消防の方向性を見据え、消防・救急体制がより確実で安全・安心で、さらに財政的に負担にならない方法を選択します。

市民の救急体制は志太や静岡地域など広域との連携が重要になっています。消防機材や救急への対応なども視野に入れて最終的に決定します。市内消防救急分署についても、広域化にめどがつき次第作業を進め、到着時間の短縮を目指します。

・財源は当面変わりません。

## 8月11日の駿河湾地震を受けて身近な地震対策を実施します！

今回の地震を教訓に、自主防災力を強化します。特に、従来からの防災資機材に加え簡易無線機等の配備や、各自主防組織の中へ防災指導員を配置することで、より実践的で自立した自主防の活動ができるよう、人員の増強・育成を強化します。

住宅建築物について耐震化診断などの要望が急増しています。この機会に事業の推進を図るために、市内関係事業者と推進会議を立ち上げて、耐震化を促進します。この会議は、11月にも立ち上げ、補正予算での対応など積極的に推進します。

・簡易無線機の配備経費 約 3,000 万円

## 公務員の総人件費を1割削減し、その予算を福祉及び防災に充当します！

民間委託可能な市行政の一部について、更に指定管理者制度移行を促進します。給与手当の見直しやフレックスタイムの導入などで総人件費の1割削減を行い、その財源を防災・医療・福祉に活用します。

私は、現在の20%カットを継続し、就任後速やかに市民の代表で構成される報酬審議会を開催し、必要な給与関係の条例改正を行います。

・人件費削減額 2億円

## 農業が元気になる消費推進プロジェクト

牧之原市内のすべての農産物を積極的に販売していくため、若手農業者や外部専門家を入れた消費推進チームを編成して販売促進を図ります。関東圏や空港就航先との連携や販売促進イベントへの支援、空港・牧之原インターチェンジの周辺に、お茶や地元産品をPRできるハード・ソフトの支援を行います。

市内外の先進的企業などとの連携や東京・大阪の交流会での人脈などを活用して、トップセールスを今まで以上に展開し、地元農水産品の消費宣伝を行います。

また、学校給食の食材として牧之原市産の農水産物の自給率アップを図っていきます。さらに、来年は「ビタミンの日制定10周年」ですので、鈴木梅太郎博士やビタミンに関係した地元農水産品の消費宣伝を行います。

- ・予算の組み替えなどで調整します

## 住民定住化や企業活動の促進を図るために、ブロードバンドの整備をします！

市内では細江、静波地区まで高速光通信網が整備されています。それ以外の地区には今後の整備予定が無く、企業活動や文化情報活動において情報社会格差の中にあると言えます。この解消を図り、住民の定住化や企業活動の促進を図るためにも県や企業と共同でブロードバンドの整備を行います。財源は、プルサーマル導入による原子力設備周辺市町村に対する交付金を活用し、旧相良町地区から導入を始めます。実施時期については企業者側との協議となります。

- ・相良地区ブロードバンド整備に係る市の負担額 約1億 2,000 万円 [県補助あり]
- ・財源はプルサーマル交付金

## 環境施策の推進でエコビジネスの起業を支援する環境先進市を目指します！

平成27年度までに、平成18年度比で3万トンの二酸化炭素削減を行います。

そのために、新エネルギーの地産地消、全市民との連携、新エネルギーの率先導入を推進します。牧之原市役所では、「エコアクション21」に取り組んで、2年間に燃料や電気代、水道代で約10%のコストダウンに成功しました。市内全域にこの取り組みを広めると同時に、平成21年度から、風や廃棄物など市内にある未利用のエネルギーを財産に変えていくプロジェクトをスタートさせます。

環境施策を市内企業のエコビジネスの起業支援などに結び付けていきます。そして、これらの取り組み成果を国内外との交流促進の柱とします。

- ・現在の財源は全額補助金ですが、事業化は民間活力を基本にして推進します。

### 牧之原市の文化創造を強力に推進します！

牧之原市の文化や芸能などの文化活動を積極的に支援し、創造発信を強力に推進します。3年間をめどに、相良総合センターと榛原文化センターの管理運営の自由度や柔軟性を高めるためにNPO組織を立ち上げ、指定管理者として委託できるようにします。ソフト面では、現在進めています文化財保護事業と連携して、勝間田城や相良氏・田沼意次などの歴史検証を進めるとともに、生涯学習と観光を結び付けた事業を実施します。

- ・予算の組み替えなどで調整します

### 牧之原市の図書環境を向上させます。

市民の皆様から図書館建設の根強い要望があります。まずは図書館機能の充実を進め、この4年間で図書館運営や読み聞かせなどのボランティアさんや学校関係者、県立中央図書館との連携によりソフト面での充実・拡張を図ります。

図書館建設については、4年間で整備の基本計画を策定し、財政の確保にめどがついた段階で実施します。老朽化した移動図書館車の更新については、財源の確保とともに平成22年度中の更新を目指し取り組みます。

- ・移動図書館車の更新経費 約2,200万円
- ・財源は宝くじ助成による。

## その他の項目

### □市民(悩み)相談センターの設置

平成22年度から牧之原市消費生活センターを常設で設置し、消費生活における市民の生命財産の安全確保を図ります。このセンターでは、消費者行政全般を扱うとともに、牧之原市庁舎で実施している様々な相談ごとについても、ほかの部門と連携して、出張や訪問相談なども行い弱者支援の連携強化を図ります。

### □保育園の民間委託

保育園の安全や保育ニーズの増大と多様化に対応した効率的な保育園の運営を目指すために一部保育園の民間委託を実施します。平成22年度に指定管理者を決定して、23年度に移行作業を行います。完全移行は平成24年からとします。

### □保育園の耐震化

平成22年度に、坂部保育園の新築と地頭方保育園の耐震補強工事を完成します。これですべての保育園の耐震化が終了します。

### □障害者福祉の充実

相良作業所やはぐるま作業所の移転ができました。残された課題であるこづつみ作業所のグループホームの建設を支援します。また、重度障害児者介護者の支援を行います。

### □さわやか健康スポーツ支援

牧之原市のスポーツ関係は体育協会へ移りました。体育協会と連携して、子供から高齢者まですべての方がスポーツに触れて楽しんで健康になれるよう市全体として取り組みます。そのために、専門家や市民で作る「牧之原市生涯健康スポーツ発展プラン」を平成21年度後半に作成し、これに基づき計画的に事業の推進を図り、必要な予算の確保を図ります。

・予算額は、対21年度30%アップ アップ額は約 550 万円

## □産業雇用支援ネットワーク

産業界と高校・大学や行政の雇用ネットワークは4年間継続され、相良高校への工業科目の導入など時代に合った効果を上げました。今後も定期的に交流し、具体的な事業展開ができるよう意見集約を行います。若者の就業機会提供に積極的に取り組みます。

## □企業誘致と御前崎港ポートセールス

税収増を目指すために企業誘致を促進します。

県内でも、近年最大級となるスズキ納車整備工場向けの中里工業団地造成工事がスタートしました。スズキ相良工場でも「SX4」に加え、「キザシ」や「スイフト」の生産が来年から始まります。関連企業の市内誘致を促進します。

御前崎港の利用促進が牧之原市の企業誘致にとって重要ですので、市内外の企業と連携して、中国やアジア航路を主体に新規航路を開拓します。

## □いきいき高齢者健康支援

後期高齢者の人間ドックについて枠の撤廃で希望者が全員受けられるようにします。特定検診保健指導の実施率が低調です。受診率を高めるため、保健師・医師などと市民が検証し、目標受診率到達を目指します。検証会を平成21年度中に行います。

・必要な財源は、人件費削減により捻出

## □榛原庁舎・相良庁舎・さざんかの分庁舎の改善

行政執行の効率化という面から3庁舎体制は検討課題です。市民への行政サービスや周辺環境への配慮をしながらも、庁舎の利用という面で一定の結論を付けておくべき時期にきています。平成22年度に、広く市民や各種団体の意見聴取をした上で方向性を示します。最終判断は、議会や市民の皆さんの意思を尊重し決めてまいります。

## □みんなで牧之原市を運営するためのルールの制定(自治基本条例)

平成22年度中の制定を目指して、市民の皆様はそのプロセスをお示ししながら、市民協働により、行政運営のルールを策定していきます。

## □核兵器廃絶宣言

核兵器廃絶都市宣言の請願が議会で採択されました。核兵器のない平和な世界を目指し、市民の代表の皆さんと作業を進め、平成22年に制定します。

## □日本や牧之原市を誇りに思う心を育もう

国旗掲揚運動を通して、国を愛する心を育む市民運動が定着してきました。この運動を支援すると同時に、牧之原市を誇りに思う心を育むために、魅力満載の広報紙発行などを通じて、牧之原市の情報提供を一層推進してまいります。

## □砂浜と海岸環境の復元

フォーラム牧之原海岸グループの活動を支援し、市民に砂浜復元を理解してもらいます。消滅してしまった藻場が復元してきました。国や県と連携して藻場復元運動を進める漁業者や市民を支援します。日本一の藻場復活に向けて漁業者を先頭に全市民が取り組むよう支援していきます。

## □茶業緊急支援策の樹立

価格崩壊が著しい茶生産の現状を見ると、茶価安定基金制度は有効な対策です。この実現には、生産者や茶商、流通業者や県、更には全国の茶業関係者など全国規模での取り組みが不可欠です。茶業会議所理事という立場を生かし、県や全国と調整に当たります。

## □男女協働参画の推進

一人ひとりを大切にする心地いい社会を作るとして、牧之原市男女協働学習行動計画を策定しました。各地区で行われている男女協働サロン活動や、学校や職場での、男女がお互いに支えあって学びあえる環境づくりを積極的に支援します。

## □高齢者支援の充実

牧之原市では報徳の精神を掲げ、道徳教育の充実を積極的に推進しています、人生経験豊富な高齢者が、貴重な自然と共生して暮らした時代の知恵を生かし、悲惨な戦争体験などを語り伝えていくことはとても重要です。そのような機会を作る中で、子どもたちの「敬老」の精神を醸成します。

## □原子力発電の安全と安心

二酸化炭素削減の上から現状では必要な原子力発電ですが、先の地震において想定を超える揺れを観測するなど、地震時における原子力発電所の安全性が心配されています。立地市と周辺市で構成する4市対策協議会で、国や中部電力に対して対応を求めると同時に、市としても専門家を交えて学ぶ機会を持ちます。

## □富士山静岡空港から全国へ シティセールス事業の推進

富士山静岡空港の地元として、空港就航先との交流を積極的に行い、農水産物の消費拡大や人的交流などを促進し、空港立地市としての可能性をまちづくりに活かします。シティセールスは4年間で東京2回、大阪で1回開催します。

## □景観形成団体

牧之原市は11月から景観形成団体となります。牧之原市の特色である「茶園」と「白砂青松」を生かした景観形成を進めるために、市民運動の輪を広げます。また、景観に配慮した看板の設置や美化運動などの条例化を行います。

## □教育力向上「学校で 地域で みんなで創る教育」

私と教師の語る会を公開で開催するよう提案します。子供たちは牧之原の宝です。その子供たちを教えている教師が、どんな想いや悩みを抱えながら牧之原市教育に取り組んでいるか伺い、教育委員会と市長部局が、地域が、親が共に連携して教育力の向上が図れるよう取り組みます。

## □一部事務組合の再編等の検討

現在、牧之原市が構成市となっている一部事務組合は12組合あります。し尿やごみ、火葬場などは、旧町単位のまま、各々の組合で運営されています。牧之原市単独で解決できる問題ではありませんが、この4年間の中で、再編も視野に入れた方向性を示します。

以 上